

Hello! from LONDON

20.Dec.2021 No.13

五味 公人

皆さんお元気ですか？ 日本もずいぶん寒くなってきたようですね。ここロンドン、ずうっと同じような寒さです。毎日最低2℃、最高7℃ぐらいの気温ですが、決まって曇りのち霧雨なので太陽を見たことがありません。しかも日の出が8時過ぎ、日没が3時半ごろなので、何となく寒さをいつも感じています。今朝も霧雨でしたし、一日中曇っていました…。

さて、このところ日本からたくさんの「心配メール」をいただいています。ありがとうございます。「イギリス、すごいことになってるけど、大丈夫？」「オミクロンがすごく流行ってるって？」…今のところ、すこぶる元気にしています。そしてついに12/18(土)に、3回目のコロナのワクチン接種をしました！ いわゆる「ブースター接種」です。

このところのイギリスの新規感染者数は毎日新記録更新で、ついに一日に9万人です！ 驚きの数ですが、街はいたって「普通」です。クリスマス前で、かえってにぎわっているぐらいです。特にロンドン中心街では、2年ぶりのクリスマスマーケットが大にぎわいです。



にぎわうロンドン中心街

しいて言えば、オミクロン前に比べ、屋内店舗と公共交通機関でのマスクが義務化されたぐらいですが、それも徹底されていません。地下鉄やバス(2階建てロンドンバス!)の車内、スーパーでもノーマスクの人はけっこういます。(そういう時は、つついこちらから距離をとってしまいます…)

クリスマスマーケット



ではなぜ、イギリスは新規感染者数が多いのでしょうか。一つの理由に、PCR検査が誰でも簡単にできることが上げられます。私もこちらに来て、週に2回必ず簡易型PCR検査をしています。(そのキット

は街の薬局で誰でも無料でもらえるのです。) もちろん全国民がしっかり検査しているとは思いません。しかし、無症状でもはっきり陽性の結果が出ます。陽性が出たら、今度は病院でより精密なPCR検査を受けるという流れです。念のためにという人も含め、実にその被検者が1日50万人いると言います。だから感染者も多く判明するのですが、逆に無症状のままウィルスをまき散らすということもないし、早めの対処で重症化も防げるともいえます。

今現在ジョンソン首相は、どこの国に対しても水際対策を取っていません。旧植民地の南アフリカとのつながりも大きいので、そこも同じ扱いです。人の流れを活発にすることによる、経済活動の活性化を優先しているのでしょう。市民もオミクロン株を心配している人は

少ないのではないかと思います。ただやはり、2年ぶりに普通に過ごすクリスマスに向け、コロナにかからないようワクチン接種は意識しているようです。政府も、ブースター接種には力を入れています。だから年内に、18歳以上のほとんどの3回目の接種を終わる目標を立てています。ほんとに？ **ワクチン予約完了のメール** →

私にもその案内メールが来たので、即申し込みました。指定された街の教会に予約した時間に行くと、長蛇の列が！ 予約なしで、飛び込みで打ちに来た人たちの列でしたので、そこをすり抜け受付を済ませ、大きな教会のホールへ入っていくと、接種するブースが20ほどあり、人であふれていました。係の方の指示で座って待っていると、5分ほどで私の番が回ってきました。私の担当の男性は真面目そうな方で、とても丁寧に問診をし、説明をしてくれました。問診の時に、日曜日の夜になると気分が重くなると言ったら、真剣に症状を聞いてきたので、あわてて冗談だよと言って謝っておきました(-_-;)。

おそらく接種してくれたのは、非番の軍人か訓練されたボランティアの方でしょう。急激に3回目の接種政策を進めているイギリスでは、医師だけでは足りないのです、そういった方々が担当してくれています。ありがたいことです、私のような外国人にも無料で同じように接



← **にぎわう接種会場** 種してくれるのです。

今回のモデルナワクチン接種では、打った後、前2回のアストラゼネカとは違って、会場で10分程休憩していくように言われました。本当にこれで英国政府の言うようにオミクロンで重症化しない？ 免疫が9倍ついた？ ほんとに？ 4回目ありそう…。いくつかの疑問と期待を持ちながら帰宅しました。ちなみに副作用は、腕が痛いぐらいですみました。

とは言え、クリスマスを大切にしているイギリスでは、とりあえずクリスマス休暇まではロックダウンはないでしょう。しかしその先が読めません。去年に引き続き、突然ロックダウンということもないとは言えません。そうすると zoom で授業でしょうか？ 6年生担任の私としては、小学校生活まとめの学期である3学期、そして卒業式がどうなるか気がかりでしょうがありません。2月中旬には、日本に受験帰国していた子たちも帰ってきて、全員集合できると思っていたのですが…。

日本もイギリスも、お互いまだまだコロナとの闘いが続きます。とてもではないですが、イギリス人のように「コロナとの共存」という意識はもてません。しかし共存の道を探さなくてはいけないのでしょうか？ ともあれ、これで2021年の「ロンドン通信」を終わります。また来年も、旬のイギリス、ロンドンのニュースを伝えられるといいなと考えています。今年1年読んでいただき、ありがとうございました。よいお年をお迎えください。

*May Christmas bring you wonderful moments
that become warm memories.*